

平和新聞

発行 日本平和委員会
〒105-0014 東京都港区芝1-4-9 平和会館
電話 03(3451)6377 FAX 03(3451)6277

大阪版編集 大阪平和委員会
〒543-0012 大阪市中央区谷町7-3-4 新谷町第三ビル210号
電話 06(6765)2840 FAX 06(6765)2837
E-mail:osk-heiwa@able.ocn.ne.jp http://www.osk-heiwa.org

大阪から31人

日本平和大会 in 沖縄

会員5人増

日本平和大会が11月8日、9日沖縄県内で開催され、大阪からは31人が参加しました。

【座り込み連帯行動】

参加者は8日の午前と午後、米軍嘉手納基地と瀬嵩の浜からの辺野古基地建設状況の視察をした後、キャンプ・シュワブのゲート前テント村で座り込み連帯行動を行いました。瀬長和男・沖縄県統一連事務局長から「ダンブが増えている。船による土砂の搬入がとても足りず、全国から土砂を集めようとしているが、外来生物の加熱処分をうたう」外来生物侵入防止条例「が桎梏になっている。安倍政権は埋め立て工事が進んでいるように言っているが、まだ1.4%しか進んでいないとの学者の分析もある。座り込みも含め全国から支援をお願いします」と訴えがありました。



大会に初参加のHさんの読んだ歌「アブチラガマ青年二人に支えられ下り、上りてついに光が！」

【開会集会】夜は豊見城市中央公民館で開会集会。

最初に玉城デニー知事が、首里城の復旧・復興を訴えた後、日米政府に対し2月の県民投票で示された「辺野古埋め立て反対」の県民の民意を尊重し、辺野古基地建設断念と普天間飛行場の危険性除去・早期返還を求めていく」と連帯あいさつしました。

この後、沖縄県選出の赤嶺政賢(日本共産党衆議院議員、参院会派「沖縄の風」の高良鉄美議員、伊波洋一議員がそれぞれ「沖縄の基地は戦争中の私有地没収を禁じた「ハーグ陸戦条約」に違反してつくられたもの。国際法違反の「米軍基地は返せ」の運動をすすめよう」「英国軍の犯罪を裁けないことから独立に至ったのが米国。その米国が日米地位協定で占領軍のようにふるまっている。地位協定の見直しをすすめよう」「住民無視で宮古島を弾薬庫建設など軍事基地化しようとしている」と訴えました。

最後に草の根の交流。普天間飛行場近くの保育園に子どもを通わす二人のお母さんは、「子どもは上空を飛ぶ米軍機からの落下物と騒音に怯えているのに日本政府は何もしない」、防衛大の人権侵害裁判をたたかっている被害者のお母さんは「人権侵害のまん延が明らかとなったが、

裁判で息子へのいじめを断罪できなかったのはくやしい」と訴えました。

【日韓連帯・国際シンポ】

9日の午前は、国際シンポジウム、分科会、動く分科会。シンポジウムのテーマは「日韓市民の連帯で非核平和の北東アジアを―軍事同盟でない未来の選択」。

最初に韓国のパネリストのオ・ヒエランさん(平和と統一を開く人々「SPARK」執行委員長)は「朝鮮半島の非核化と平和協定の締結、日本の軍国主義的な対外膨張政策の阻止の三つは、朝鮮半島の「平和と繁栄、統一」のためにも、日本が日帝時代の侵略戦争と植民地支配を反省し東アジアの国々と友好善隣関係を結び、名実ともにまともな国家として生まれ変わるためにも、一番重要な課題だ。今、日韓の平和運動団体間の団結と連帯が何にもまして切実に求められている」と報告。琉球大助教の亀山統一さんは「全国知事会での日米地位協定の見直し合意など「オール沖縄」の運動こそ、地方自治の最新・最高の実践例であり、新基地反対の世論と運動はやんばるの自然を丸ごと守ることにつながる」と報告。川田忠明日本平和委員会常任理事は、徴用工問題をめぐると議論を批判し、「徴用工問題の本質は国民徴用令(1939年)と国家総動員法(1938年)に基づき戦争遂行のために強制動員

されたことにある。安倍政権は「すでに5億ドル払って解決済みだ」と言っているが、徴用工被害への慰謝料はこれらの枠外」と報告しました。

青年大活躍 11・3集会

参加者は午後、大会の最後に那覇市内をパレードしました。なお、今大会中に若い役員からの心に響く訴えもあり5人会員が増えました。

11月3日午後、扇町公園で「総がかり集会」が1.2万人の参加で開かれ、参加者は皆で「NO! 安倍政治」「9条改憲ストップ」「東アジアに平和を」のポテッカードを掲げながらコールをしました。

集会では、高山佳奈子京都大学大学院教授がゲストスピーチし、「先の参院選挙では、自民党がマスコミを操作し、投票率が下がることにつながる、『自民党』優位の情報を垂れ流すことで自民党など「改憲勢力」の3分の2議席の確保を狙ったが、市民と野党の共闘でそれを阻止した」と述べました。

また韓国の市民団体の代表もスピーチし、「市民レベルの日韓連帯」の重要性について訴えました。維新府政が補助金を拒んでいる朝鮮高級学校の女子生徒たちが民族衣装を着て舞うと会場から大きな拍手が湧きおこりました。

- 【12月の行事案内】
- 1日(日) 「日米合同演習反対あいばの集会」 13:30~ 近江今津・住吉公園
 - 5日(木) 韓国・江原春川フォーラム(~12/8) 千坂、上羽両事務局長参加
 - 6日(金) 大阪革新懇・斉藤貴男さん講演会 18:40 ドーンセンター7階
大阪原水協6・9行動 12:00 近鉄上本町駅前
 - 14日(土) 日韓のかかわりを考える歴史散歩 13:00 JR天王寺駅中央改札口
防衛大学人権侵害裁判報告会 14:00 アステック KOBE
 - 15日(日) 同上 同上 奈良県教育会館
 - 21日(土) 東住吉平和委員会結成総会 13:00 今川地域振興センター
 - 24日(火) 正月餅入荷 1kg 1500円、10袋以上 1300円



岩本さんの活躍もあり、集会会場で会員が5人ふえました。

員会青年協議会副議長はもうひとりの女性司会者と一緒に見事な進行役を果たしました。

月例沖繩連帯行動

大阪平和委員会は、11月15日正午より近鉄上本町駅前... 「沖繩連帯行動」を大阪うたごえ協議会のメンバー6人も含め13名の参加で実施しました。大阪の仲間も二人参加してくれました。

この行動では「安倍政権」を見る会”で公金私物化―沖繩では民意無視の基地建設、総辞職を！”と呼びかけるビラが配布され、「日米地位協定の見直しを求める署名」30筆と「辺野古新基地の中止を求める署名」45筆が集まりました。

うたごえの仲間が沖繩の歌を元気に歌い、「辺野古新基地建設やめて、美しい海を次世代に手渡そう！その費用を首里城再建に！」と書いた横断幕を掲げたこともあり、たくさんの署名が集まるとともに首里城再建カンパも1万11円寄せられました。署名はしなくても、首里城再建カンパだけしていくサラリーマンがたくさんいました。



12月行動は16日(月)同時刻・同場所で実施します。ご参加を！

橋本・小林両氏来所

橋本敦名誉会長と小林徳子顧問が10月25日午前、大阪平和委員会事務所を訪問しました。

その目的は、来年2月1日東京で開かれる日本平和委員会70周年記念行事で披露される日本平和委員会の活動と歴史を振り返るDVD撮り。

橋本名誉会長は病氣入院のあと初めての外出でしたが元気な姿で現れました。小林顧問も相変わらずかくしゃくとしていて、中国建国70周年を機に贈られた「70周年記念賞」を持参しました。

最初に橋本名誉会長のDVD撮影。橋本さんは「24年間参院議員を務め、田中角栄の金脈問題で田中内閣を総辞職させた。小林さんにバトンタッチするまで11年間大阪平和委員会会長を務めた」と語りました。次は小林顧問の番。小林さんは「組織は大きくしなければだめ」の持論を展開し「2016年60周年総会は会員1500人の壁を突破して迎えた」と語りました。



来年2月1日が待ち遠しい

待望の会結成へ 東住吉で

東住吉で会結成の目処がつきました。大阪では都島平和委員会(2017年結成)から2年ぶりの基礎組織の誕生です。「都構想」住民投票を来年に控え絶好のタイミングです。

次の日程での会の結成になりますので、他の地域の皆さんも多数応援に駆け付けましょう。

◇今月30日(土)午前10時より今川地域振興センターで総会プレ企画として「ザ・思いやりII―希望と行動編」を上映。

◇次いで12月21日(土)に午後1時30分より同所で結成総会。

空は青く平和は続く続けよう

名護在住 福山功勝

病院の定期検診と堺での「沖繩報告」のため、3カ月ぶりに帰阪し、再び沖繩に向かった11月5日午後2時過ぎ、関西空港からの空は晴れ渡っていた。

南から北へと飛び立った飛行機は、大阪湾を左へ旋回するようにして高度を上げていった。

5分も立たないうちに右下眼下に明石海峡大橋が目に入る。座席が後部の窓側、ちょうど主翼の翼が邪魔にならない位置だったので、眼下が一望できた。何れも飛行機に乗っているが、これほど雲一つない天気に恵まれたのは初めてのように思う。

淡路島をほぼ縦断するように飛び、間もなく徳島上空へ。遠方に高松市街、本土岡山からの瀬戸大橋もきれいに見える。本当に雲一つない。だから岡山から広島方面も霞んではいるが良くわかる。瀬戸内海の島の多さも箱庭のように把握できる。「四国三郎」の異名を持つ吉野川の蛇行を眼下に、高知上空を経て足摺岬を通過。遠方には九州の陸地と山々。宮崎の長い日南海岸も美しい白線を描く。流石に桜島だけは頂上に雲がかかり見えなかつたが、大隅半島、薩摩半島におさらばすればあとは海上。今度は海が見えない替わりに雲海が一面に切れ目なく広がる。そこに南西からの陽光が反射して、これまた絶景。しばらくうとうとしたが、気が付けば眼下に辺野古。高度を下げた機体は「平和の礎」を旋回しながら那覇空港に到着。2時間近くの一大会場を堪能させてもらった。

「させてもらった」というそんな感謝の気持ちが沸々と湧いてくる。

74年前、テニアン島から原爆を積んで飛び立ったB29爆撃機「エノラ・ゲイ」は、こんなに晴天ではなく逆方向だったが、この上空を飛んで罪のない人々を殺した。そんな人々の分まで眼に焼きつけて、この「美しい日本列島」を知らせたい衝動に駆られる。

11月8日、9日の両日、「2019年日本平和大会in沖繩」が豊見城市と那覇市で開かれた。全国から1100人を超える人々が集まり、「安倍改憲政治にサヨナラを！」を合言葉に、辺野

古ゲート前の座り込みや、「日韓市民の連帯で非核平和の北東アジアを」の国際交流シンポや「戦争する国づくり」反対などの多彩な分科会が開かれた。翌日の午後、那覇の城岳公園で、「平和委員会」の幟が林立する中で、閉会集会が行われ、そのあと国際通りを県庁まで延々とデモ行進をした。この日も汗ばむほどの晴天で、久しぶりの長蛇の列と大きく響くシュプレヒコールに、沿道のマンションからは、おばあさんや孫が手を振るなど、デモ隊と沿道の人々との笑顔の交流が続く。平和の大切さを深く感じる2日間となった。

【福山さんの「名護通信」は都合で今回で終了します。ご愛読ありがとうございました】

今月の言葉 「官邸のアイヒマン」

北村滋氏(前内閣情報官、現国家安全保障会議局長)は政権に絡む微妙な機密を差配し「官邸のアイヒマン」とも呼ばれる。首相と昵懇なTBS記者(当時)が「レイプ疑惑」で逮捕を免れるため助けを求めたのが北村氏であることを週刊新潮は伝えた。加計学園疑惑で「官邸の圧力」を問題視した前川喜平元次官の「出会い系バーへの出入り」を読売新聞にリークした件にも関与したとされるなど、首相周辺の微妙な動きに名前が挙がる。

(「世界」10月号メディア批評より)